

決算説明会

2009年3月期第3四半期

**2009年1月30日
ミネベア株式会社**



3Q累計連結業績ハイライト

・円高や原材料高騰に加え、世界同時不況の影響により減収減益

(百万円)	2008年3月期	2009年3月期	前年同期比 伸び率
	1Q-3Q累計	1Q-3Q累計	
売上高	253,389	209,780	-17.2%
営業利益	23,476	16,231	-30.9%
経常利益	20,692	14,985	-27.6%
税引前利益	19,199	13,023	-32.2%
純利益	12,528	8,653	-30.9%
一株当たり 純利益(円)	31.40	21.81	-30.5%

為替レート	08/3期 1Q-3Q	09/3期 1Q-3Q	備考
US\$	117.57円	103.50円	()内は、タイ中央銀行発表オンショア・レート。 タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃されたため、これ以後、オンショア・レートとオフショア・レートとの大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	162.52円	153.34円	
タイバーツ	3.73円 (3.42円)	3.10円	
人民元	15.51円	15.00円	

2009年1月30日

1



2009年3月期第3四半期累計の連結業績は、売上高 2,097億8,000万円、営業利益 162億3,100万円、純利益86億5,300万円となりました。

前年同期に比較して、売上高は17.2%の減少、営業利益が30.9%の減少、純利益も30.9%減少の減収減益となりました。

今期に入って、円高や原材料価格高騰の影響が収益に大きく影響し、当第3四半期からは、世界各国の景気が同時かつ急激に悪化したため販売が減少し、業績に悪影響を及ぼしました。

3Q連結業績ハイライト

・3Qからの急激な世界景気悪化により減収減益

(百万円)	2008年3月期	2009年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	85,142	76,572	59,166	-30.5%	-22.7%
営業利益	8,355	6,615	4,532	-45.7%	-31.5%
経常利益	7,456	6,206	4,094	-45.1%	-34.0%
税引前利益	7,003	6,044	2,920	-58.3%	-51.7%
四半期純利益	5,054	3,570	2,447	-51.6%	-31.5%
一株当たり 四半期純利益(円)	12.67	8.95	6.24	-50.7%	-30.3%

為替レート	08/3期3Q	09/3期2Q	09/3期3Q	備考
US\$	113.45円	107.97円	99.17円	()内は、タイ中央銀行発表オンショア・レート。 タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃されたため、これ以後、オンショア・レートとオフショア・レートとの大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	163.92円	165.81円	132.72円	
タイバーツ	3.64円 (3.33円)	3.20円	2.85円	
人民元	15.17円	15.77円	14.51円	

2009年1月30日

2



2009年3月期第3四半期の連結業績は、売上高591億6,600万円、営業利益45億3,200万円、四半期純利益24億4,700万円となりました。

前年同期に比べ、売上高は30.5%の減少、営業利益が45.7%の減少、純利益は51.6%減少の減収減益となりました。

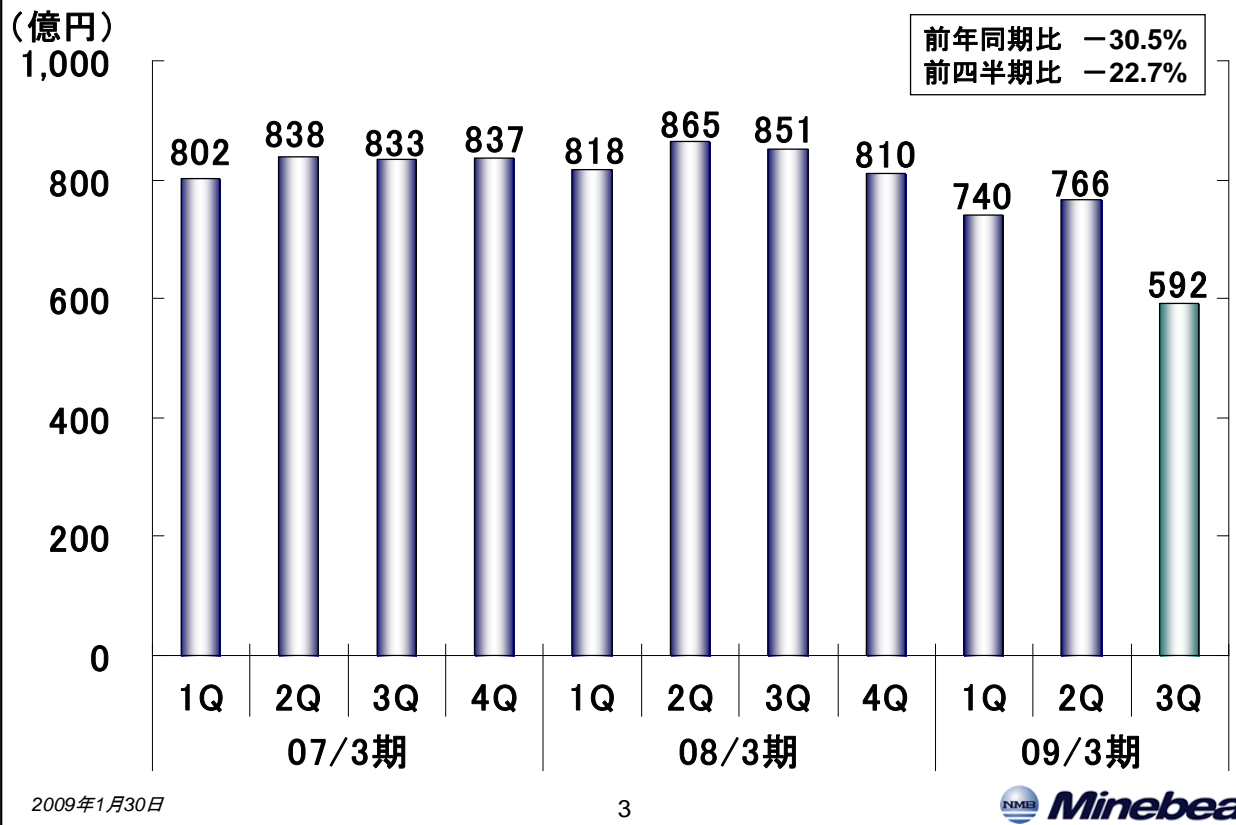
第3四半期に入り、弊社の生産性向上やコスト削減といった内部努力を上回る規模とスピードで世界各国の景気が同時かつ急激に悪化しました。

このため、販売は月を追うごとにますます大きく減少し、為替もまた円高基調を強めました。

これらの要因に加え、一部原材料価格の高騰もあり、業績に悪影響を及ぼしました。

四半期推移

売上高



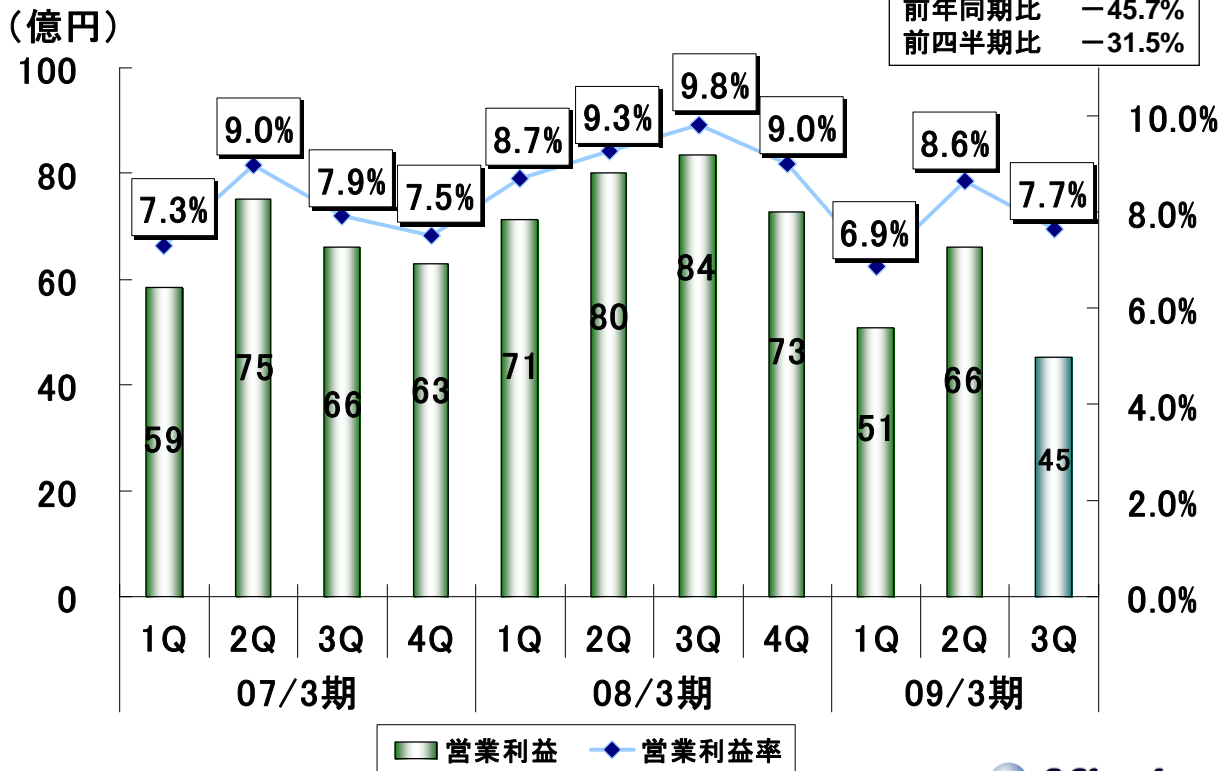
当第3四半期の売上高は、世界各国の景気が同時かつ急激に悪化したことと、為替が円の独歩高になったことが大きく影響し、第2四半期比で22.7%の減少となりました。

製品では主に、ボールベアリング、情報モーター、エレクトロデバイス、HDDスピンドルモーター、キーボード、ピボットアセンブリーの売上高が大きく減少しました。

円高などによる売上への為替影響は、第2四半期比でマイナス55億円の影響、前年同期比でマイナス86億円の影響となりました。

四半期推移

営業利益



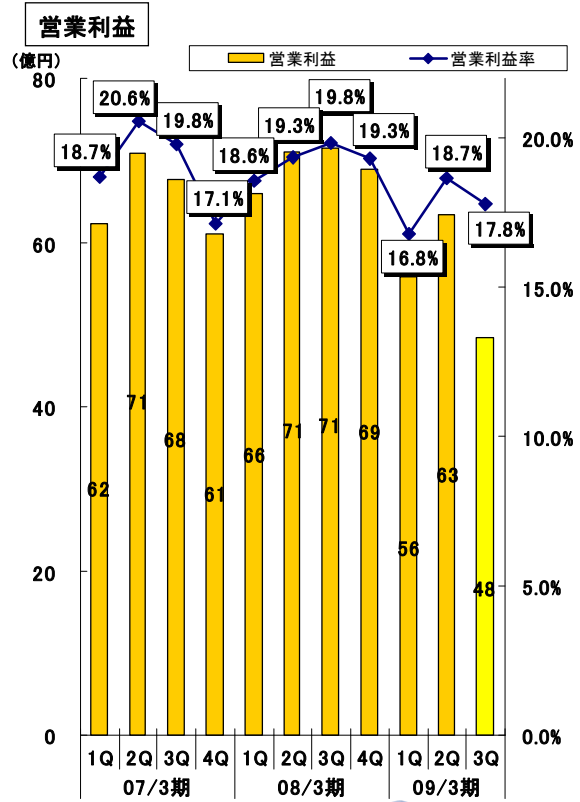
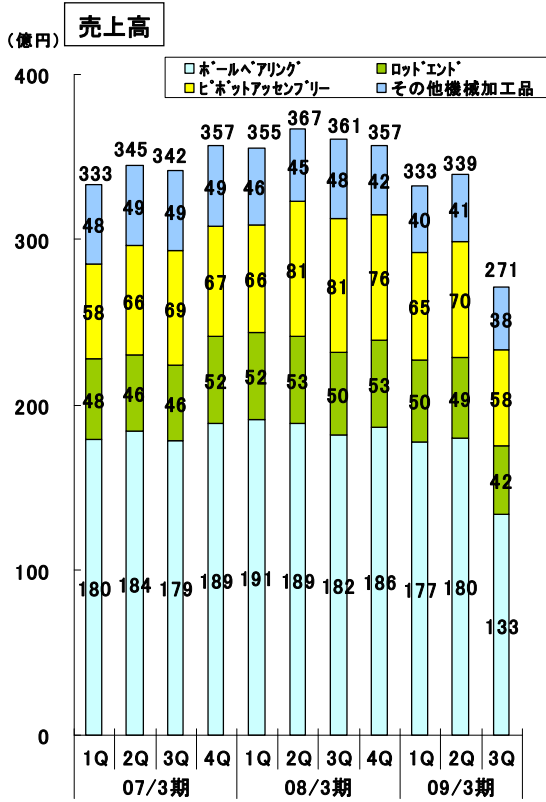
当第3四半期の営業利益は、第2四半期比で31.5%減の45億円となりました。

営業利益率は、0.9ポイント低下の7.7%となりました。

売上高の急減に対して様々なコスト削減策を進めた効果もあり、営業利益率を下支えしております。

営業利益への為替影響は、USDドルに対してパーツ安が進行したことにより、第2四半期比で約3億円のプラスの影響、前年同期比でも約2億円のプラスの影響が出ています。

セグメント別四半期推移 機械加工品事業



2009年1月30日

5

NMB Minebea

機械加工品事業セグメントの当第3四半期の売上高は、第2四半期に比べてマイナス68億円、20.0%減少の271億円となりました。世界景気の急減速により、月を追うごとにますます販売が減少し、また円高の進行により売上金額が目減りしました。

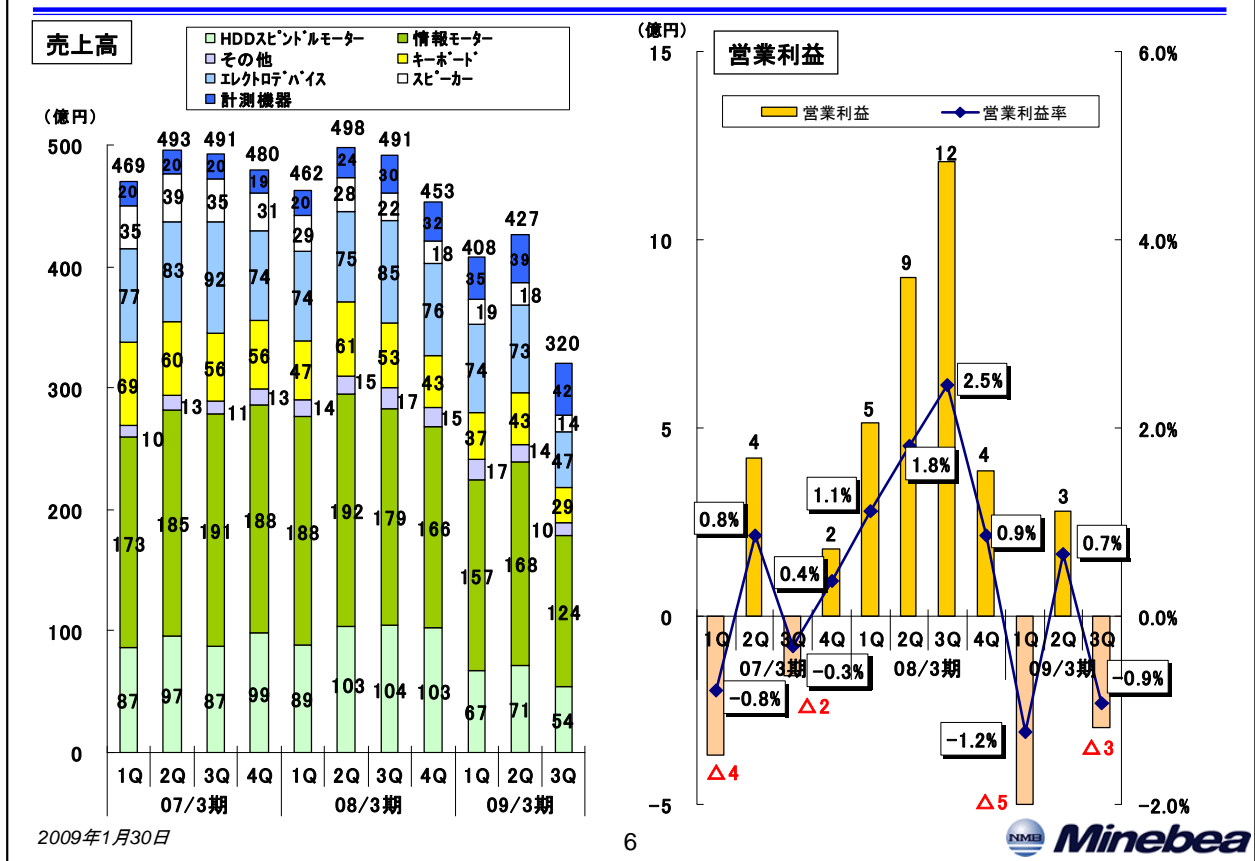
営業利益でも世界景気急減速の影響があり、第2四半期に比べてマイナス15億円、23.7%減少の48億円となり、営業利益率も0.9ポイント低下の17.8%となりました。売上の急減という危機的な状況に対し、スピードを持って様々なコスト削減策を進めており、営業利益率の低下を下支えています。

製品別では、ボールベアリングにつきましては、売上高は前年同期比26.9%の減少、第2四半期比では26.1%の減少となりました。ミニチュア・小径ボールベアリングの外部販売数量は11月に入り前月比17%減少し、12月はさらに前月比20%の減少、当第3四半期では、前年同期比、第2四半期比ともに26%減少しました。第4四半期も当第3四半期に比べ、さらに販売数量は減少するものと見込んでおります。利益面でも当第3四半期は、第2四半期に比べ販売数量の減少が大きく影響し、利益が減少しました。今まで以上のコスト削減、効率化をスピードを持って推し進めています。また、厳しい環境下ではありますが、現地通貨ベースでの販売単価は維持しております。

ロッドエンド&スフェリカル・ベアリングにおいては、円高USDドル安の影響があり、売上高は前年同期比16.0%の減少、第2四半期比では為替影響に加えてクリスマス休暇の影響があり14.3%の減少となりました。利益面では、第2四半期に比べ為替影響により減少しました。今後も堅調な航空機生産に確実に応えるべく、生産能力の増大に努めるとともに、受注活動を積極的に進めていきます。

HDDに使用されるピボットアッセンブリーにつきましては、売上高は前年同期比28.4%の減少、第2四半期比では17.1%の減少となりました。HDDの販売減少や在庫調整を受け、ピボットアッセンブリーの販売数量は11月に入り前月比23%減少し、12月は前月比38%減少しました。当第3四半期では、前年同期比で18%の減少、第2四半期比で12%減少しました。第4四半期についても、当第3四半期に比べ販売数量は更に減少するものと見込んでおります。利益面では、当第3四半期は第2四半期に比べ販売数量減少による売上減少があったものの、徹底した合理化や経費削減に努め、販売価格修正の浸透やパーツ安により、利益は増加しました。今後とも更なるコスト削減、効率化をスピードを持って推し進めていきます。

セグメント別四半期推移 電子機器事業



電子機器事業セグメントの当第3四半期の売上高は、第2四半期に比べてマイナス107億円、24.9%減少の320億円となりました。世界景気の急減速により、月を追うごとにますます販売が減少し、更に円高により売上金額が目減りしました。

営業利益でも売上減少の影響が大きく、第2四半期に比べて6億円減少の3億円の赤字となりました。一方で、好調な一部事業や徹底したコスト削減効果が利益の減少を下支えしております。

製品別では、HDDスピンドルモーターの売上高は、前年同期比48.1%の減少、第2四半期比では23.9%の減少となりました。12月に入り、HDD市場の急減速やメーカーの在庫調整が大きく影響しました。販売数量は11月は前月比10%の減少、12月はさらに前月比40%の減少となり、当第3四半期では前年同期比で42%の減少、第2四半期比でも18%の減少となりました。こうした中でも、高付加価値製品である2.5インチ向け販売数量は、上半期に新規客先2社を獲得したこともあり、当第3四半期では前年同期比で23%の増加、第2四半期比でも14%増加させることができ、製品ミックスの改善につながりました。利益面では、販売数量の減少があったものの、製品ミックスの改善、歩留まり向上、人員見直しを含むコスト構造改善に努めた結果、第2四半期に比べ若干ではありますが赤字幅は縮小しました。引き続き、収支改善に取り組んでまいります。

情報モーターの売上高は、世界景気急減速の影響が大きく、前年同期比30.7%の減少、第2四半期比26.2%の減少となりました。利益面でも引き続きコスト削減に努めたものの、ファンモーター、ステッピングモーター、DCブラシ付モーター、振動モーターの各製品とも販売数量が減少し、情報モーター全体では赤字となりました。製品ミックスの改善、コスト削減、効率化を更にスピードを持って押し進め、収益の改善を図ります。

キーボードの売上高は、当第3四半期では法人向けノートPCキーボードやアフターマーケット向けPCキーボードの販売が大きく減少し、前年同期比45.3%の減少、第2四半期比32.6%の減少となりました。利益面では、販売数量が大きく減少したことにより、赤字となりました。製品ミックスの改善、コスト削減、効率化を更にスピードを持って押し進めていきます。

エレクトロデバイスは、売上高が前年同期比44.7%の減少、第2四半期比35.6%の減少となりました。LEDバックライトは、携帯電話の販売減少に伴い、当第3四半期から販売数量が減少しました。また、大型液晶TV向けインバーターは、昨年6月以降の市場の低迷、メーカーの在庫調整により販売数量が減少しました。利益面では、赤字となりました。

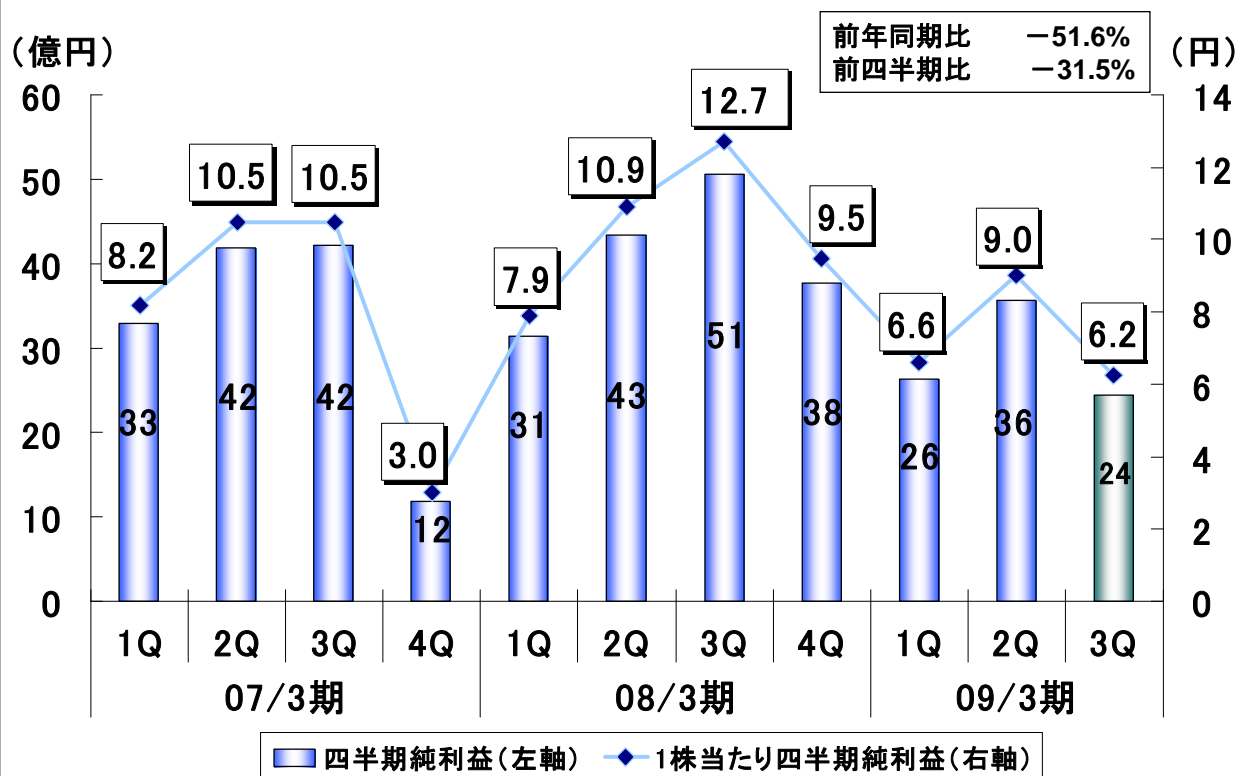
尚、LEDバックライトにつきましては、新製品の投入もあり、第4四半期には大きく改善する見込みです。

スピーカーの売上高は、前年同期比36.4%の減少、第2四半期比22.2%の減少となりました。昨年9月にタイでの自社生産を終了し、100%外注委託生産へ移行したものの、売上の減少により、利益面では引き続き赤字でした。

計測機器の売上高は、前年同期比40%の増加、第2四半期比7.7%の増加となりました。これは、自動車向け製品は販売が減少したものの、新アプリケーション向け製品販売が好調なことが主な要因です。利益も第2四半期に比べ増加しました。

四半期推移

四半期純利益



2009年1月30日

7

Minebea

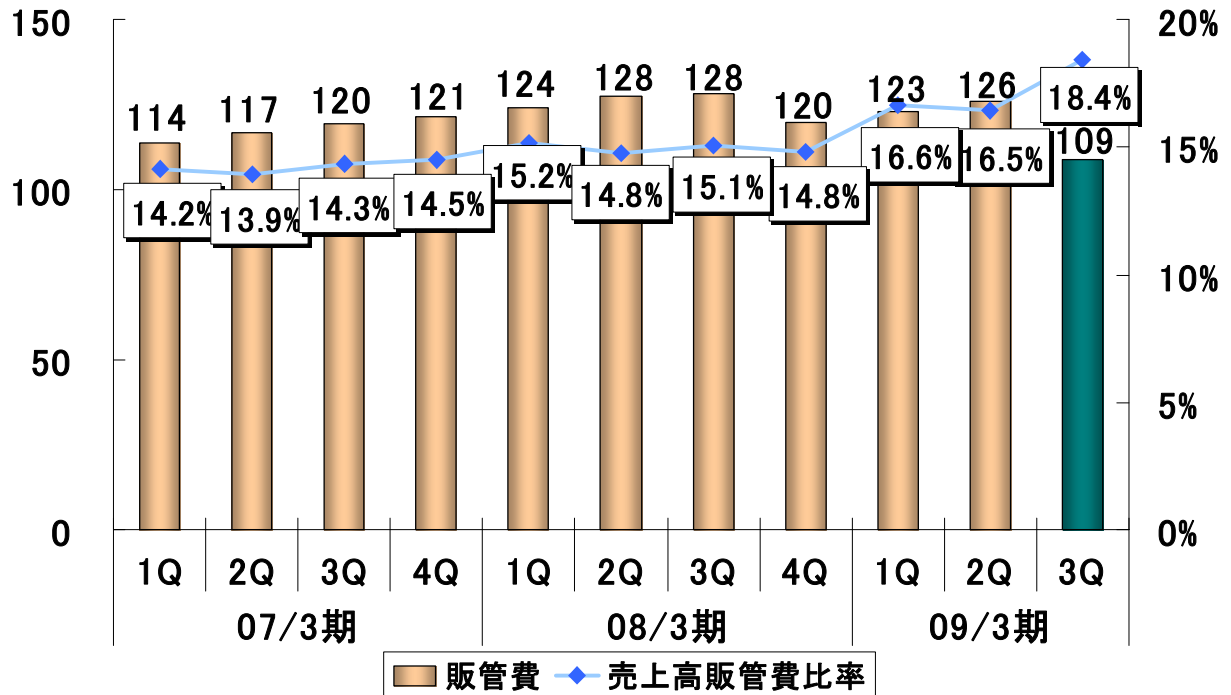
当第3四半期は、当期純利益が第2四半期に比べて12億円31.5%減少の24億円、一株当たり四半期純利益は第2四半期比2.8円減少の6.2円となりました。

これは、シンガポール子会社の清算に伴う特別利益発生や、法人税の減少があったものの、営業利益が減少したことに加え、棚卸資産の除却損や米国での環境整備費用といった特別損失が発生したことによるものです。

四半期推移

販管費

(億円)



2009年1月30日

8



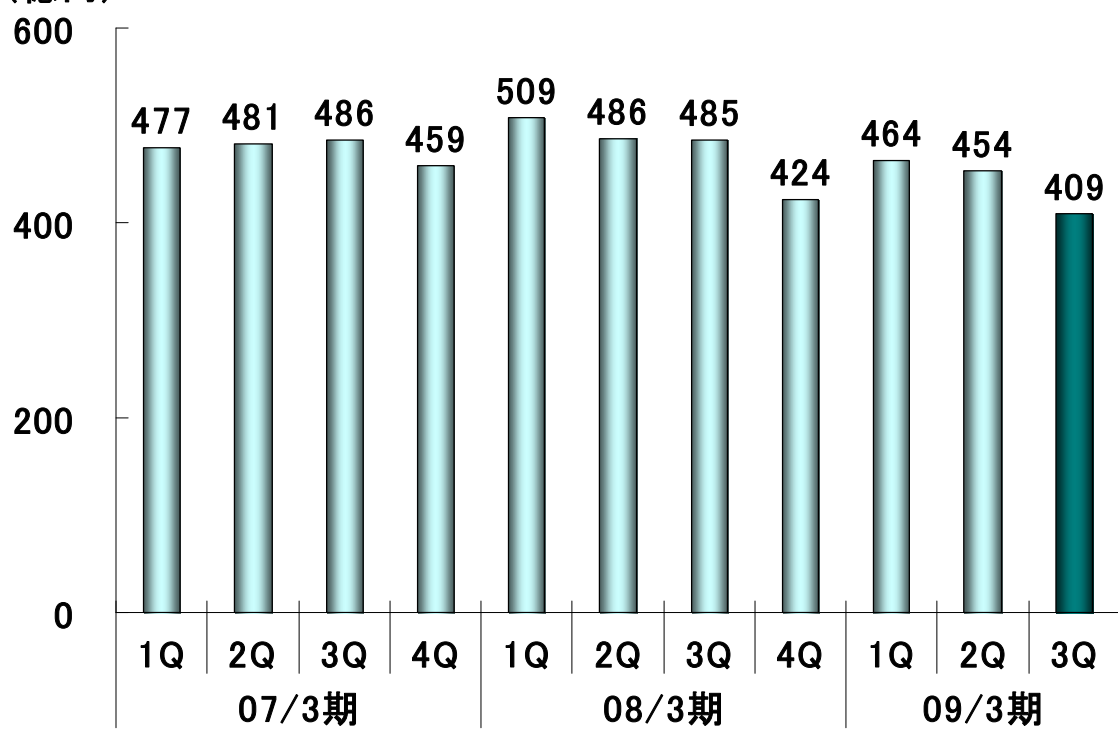
当第3四半期は、第2四半期と比べて17億円減少の109億円となりました。

販管費および経費の抑制に努めてまいりましたが、売上高の大幅な減少に伴い、売上高販管比率は1.9ポイント上昇の18.4%となりました。

四半期推移

たな卸資産

(億円)



2009年1月30日

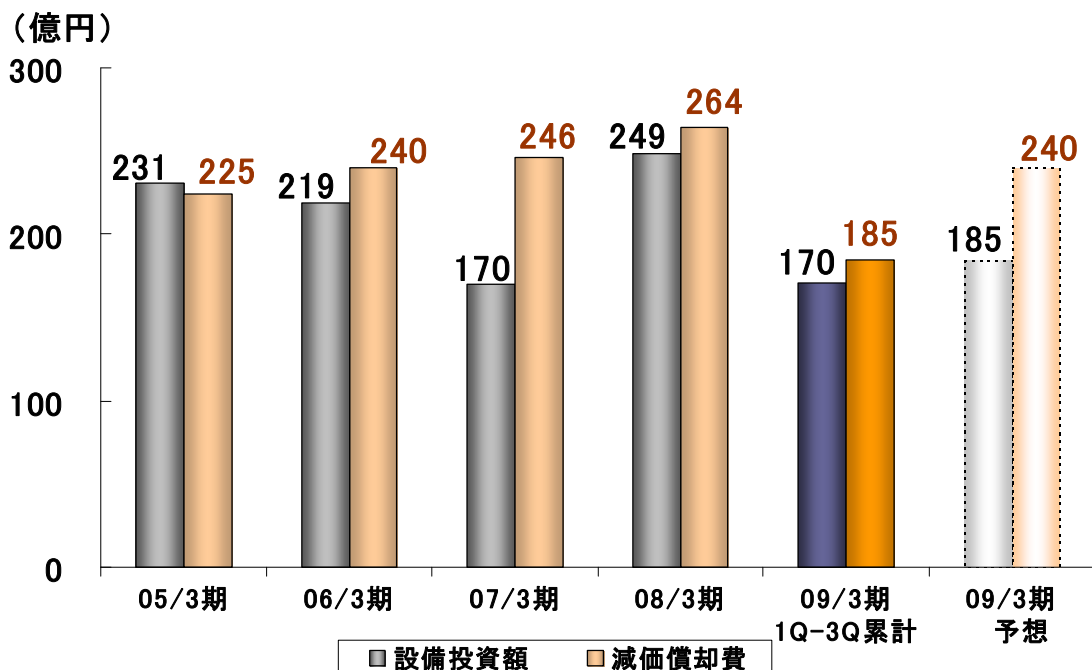
9

 Minebea

当第3四半期は、第2四半期に比べ45億円減少しました。

売上減少に合わせ、在庫削減に努めています。

年推移 設備投資額・減価償却費



※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2009年1月30日

10



当第3四半期までの設備投資額は、170億円でした。主な投資先としてボールベアリングや航空機エンジン向けローラーベアリング増産投資などがありました。

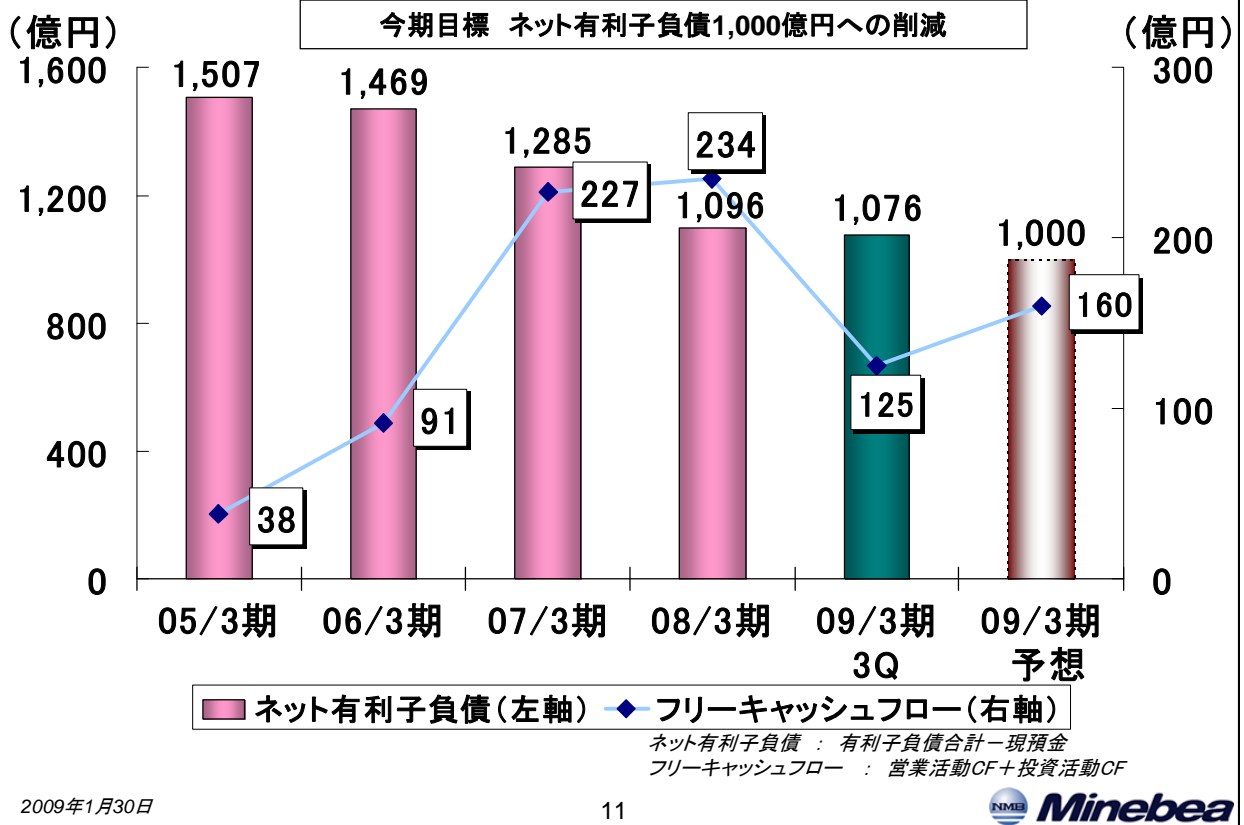
通期予想につきましては、世界景気の急激な減速を踏まえ、245億円の計画から185億円へ計画を修正いたしました。

今後の成長に必要な投資は継続していきますが、不要不急の投資を抑制することにより、投資効率の向上とフリーキャッシュフローの維持・向上を図ってまいります。

減価償却費は、185億円でした。通期予想は、設備投資の更なる抑制と為替見込みの変更により、255億円の計画から240億円に計画を修正いたしました。

年推移

ネット有利子負債



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の年ごとの推移です。

当第3四半期には、自社株買いを行ったものの、売掛金の早期回収、設備投資の抑制などを推し進め、ネット有利子負債は1,076億円と、前期末から20億円の減少となりました。2009年1月には、FDKステッピングモーター事業の譲渡がありました。今期末目標のネット有利子負債1,000億円の達成に向け、引き続き努力してまいります。

業績見通し

世界同時不況突入、為替の変動を踏まえ、通期予想を下方修正

(百万円)	2008年3月期	2009年3月期修正予想		従来予想	
	通期	通期予想	前期比	通期	減少額
売上高	334,431	260,000	-22.3%	300,000	-40,000
営業利益	30,762	17,500	-43.1%	25,000	-7,500
機械加工品	27,750	18,800	-32.3%	24,000	-5,200
電子機器	3,012	△1,300	—	1,000	-2,300
経常利益	27,691	15,500	-44.0%	23,000	-7,500
税引前利益	25,254	11,500	-54.5%	22,000	-10,500
純利益	16,303	6,500	-60.1%	12,500	-6,000
一株当たり純利益(円)	40.86	16.46	-59.7%	31.33	-14.87

為替レート	08/3期	09/3期想定	備考
US\$	115.29円	100.12円	()内は、タイ中央銀行発表オンショア・レート。タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃されたため、これ以後、オンショア・レートとオフショア・レートとの大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	162.18円	144.25円	
タイバツ	3.70円 (3.39円)	3.00円	
人民元	15.40円	14.55円	

2009年1月30日

12



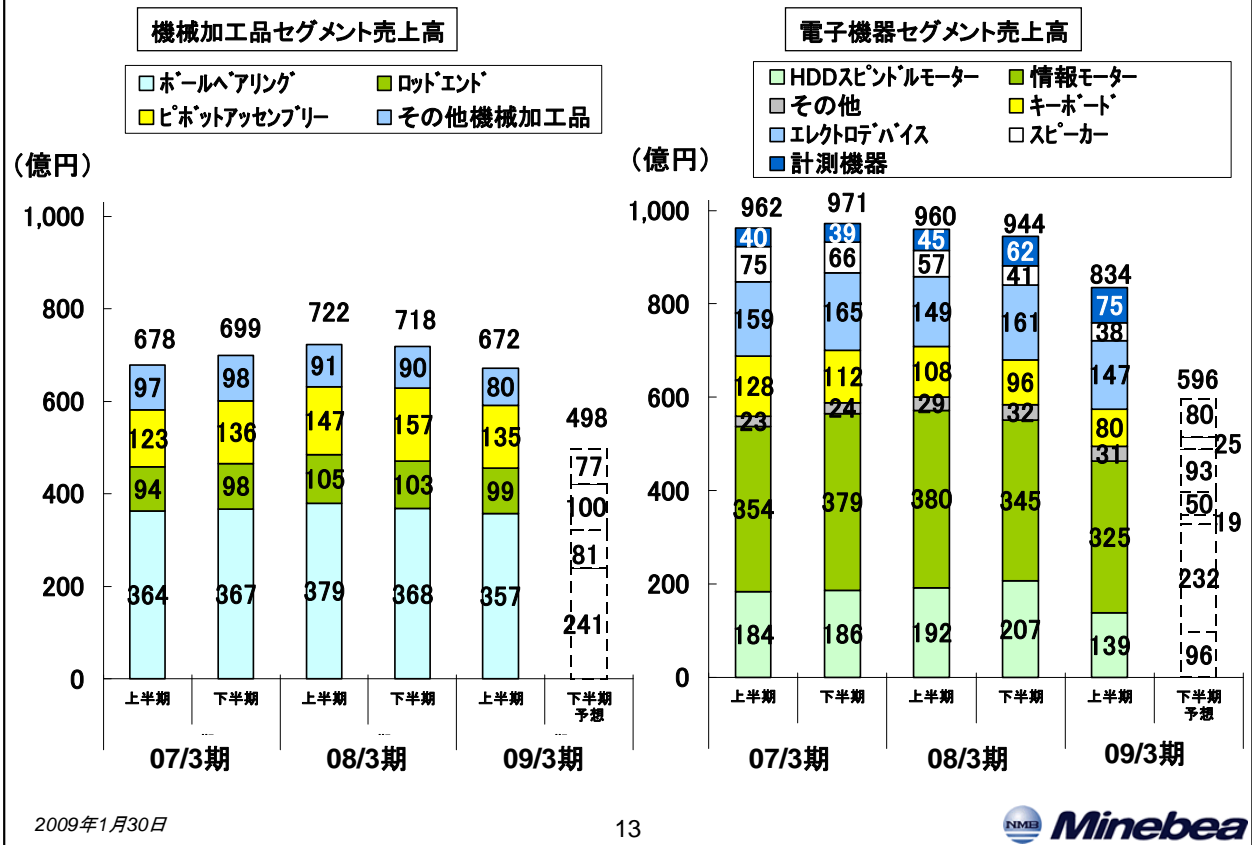
スライドにありますように、今期の業績予想を下方修正いたします。

これは、下半期に入り、生産性向上やコスト削減努力を上回る規模とスピードで、世界各国で同時に景気が悪化したこと、急激な円高という為替変動、及び、今回労働組合と閉鎖に関する協議をスタートする英国スキグネスのボールベアリング工場の閉鎖に係わる構造改革費用の発生などを勘案したためです。

売上の減少に対しては、これまで以上に徹底した効率化の追求を行い、更なる売上の減少にも対応できる体質の強化を図ってまいります。

また、生産調整につきましては、事業によって違いはありますが、稼働日調整などの施策で対応してまいります。

セグメント別売上高予想



これは、各事業セグメントの個別事業別売上高をグラフにしたものです。

販売の減少や急激な円高などにより、今下半期は上半期に比べて売上が大きく減少するものと予想しております。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2009年1月30日

